

【神奈川県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
横浜市	柴	都市近郊の立地条件を活かした観光農業で農地を守る	1	H29.08	3
三浦市	諸磯小網代	大都市近郊におけるマーケットインな農産物生産の実践	2	H30.03	4
小田原市	鬼柳	農業用排水路の改修により農地や公共施設の湛水被害を防止	3	R4.03	8

【工夫のポイント】

- 都市の中の貴重な農地を有効活用するため、**地域の代表的農家が中心となって話し合い、基盤整備を実施。**
- 立地を生かして都市住民を呼び込み、**観光農園や市民農園など交流を促進**することで、新たな収入を確保。
- **作物の多品種化・高品質化**を進めることで、収穫体験の長期間化や直売品目の充実を図る。

【取組地域の概要】



- 主要作物
・ほうれんそう、キャベツ、みかん
- 主な支援施策
・農村基盤総合整備事業(H3~9)
・地域農業活性化促進事業(県単)(H9~12)
・農業専用地区制度(市単)
・恵みの里制度(市単)
・地産地消ビジネス創出支援事業(市単)

生産条件の改善により都市近隣農地を維持

農地の有効活用を図るため、**農業振興地域の指定**を受けて土地改良事業を実施。畑の区画整理、幅員5m以上の農道の整備、畑地かんがい施設の整備を実施。**整備した農地の一部を市民農園として開設**(500区画)。

基盤



基盤整備
(H3年~H9年)

【整備前】

起伏のある丘陵地の中に**狭小な農地(畑)**が散在し、**農道の幅員も1m程度**で農作業に支障をきたし荒廃農地も多く存在。

機械化も進まず、**自給的農業が中心**であり、観光農業や市民農園など都市住民との交流もできる環境ではなかった。



生産現場

消費者へのPRの機会を数多く創出



- 露地野菜、柑橘の多品種化を進め、**収穫体験の長期間化や直売品目の充実**を図る。
- 市の防災協力農地第1号として登録し、存在を市民へPR。

加工・流通

加工品の開発による6次産業化



- 今まで廃棄していた摘果みかんの果汁を材料にした**ドレッシング**を地元料理研究家が開発。
- 摘果みかんは、メーカーと農家が直接取引し販売。

担い手

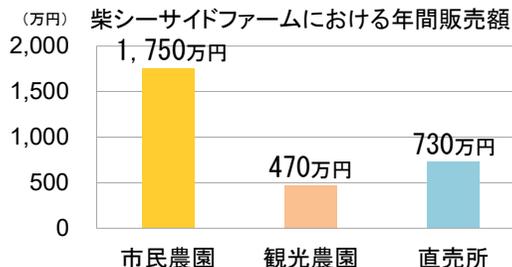
農家団体設立による都市住民との交流促進



- 地域の代表農家が中心となり「柴シーサイド恵みの里協議会」を設立。**収穫体験などの農体験の場を企画**するほか、**農産物の直売や農業イベント**を実施。

観光農業や市民農園での交流を通じた新たな収入の創出

- 農道整備により生産物の輸送環境が整ったことは、**観光農園や市民農園、直売所の開設にも貢献**。みかんやイモの収穫体験には年間約1万人が来訪。
- 平成10年に開設した市民農園では、延べ9千件の利用があり、農地の有効活用により、**自給的農業が中心であった地域に新たな収入**を生み出している。



【出典：柴シーサイド恵みの里協議会 資料】

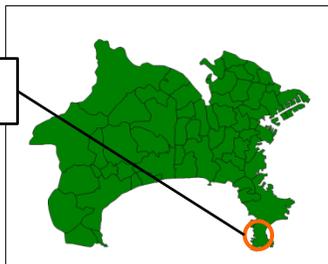
【工夫のポイント】

- 耕作放棄されていた農地を改良し、効率的な作業が可能な畑として整備することで、露地野菜の生産が拡大。
- **大都市近郊の立地を最大限に活用**することで、**外食産業との契約栽培や消費ニーズに即したマーケットインによる農業生産を実践**。
- 若手農業者や女性農業者がそれぞれの視点を活かした経営を展開し、地域農業の発展に寄与している。

【取組地域の概要】

- 位置 みうらし
神奈川県三浦市

もろいそこあじろ
諸磯小網代



- 主要作物
ダイコン、キャベツ、スイカ、かぼちゃ、メロン など

- 主な支援施策
 - ・ 基盤整備促進事業(団体営)(農用地の造成)(H2~H20)
 - ・ 農業競争力強化基盤整備事業(畑地帯担い手育成型)(H27~H33)

基盤

営農条件の良好な農地の造成と新規作物の導入

- 谷戸を埋め畑地を造成(平成2年~平成20年)。
- 農地の拡大を通じて、農業機械の導入など営農条件の改善及び高収益作物への転換を図るほか、近年では、農産物の更なる高品質化に向け、畑地かんがい施設等を整備中。
- 良好な営農条件の下、**大都市近郊の立地を活かした農業**が展開されている。



基盤整備

(H2年~H20年)
(H27年~H33年)

【整備前】

三浦半島特有の丘陵地の中の入り組んだ谷(谷戸)は、周囲の水が集まるため水田として利用されていたが、狭小な湿田であり、**農作業に多大な労力を要することから、昭和50年代以降は耕作放棄地の発生が相次いでいた。**



生産現場

「かながわブランド」野菜の栽培を促進

- 基盤整備による良好な営農条件の下、「かながわブランド」野菜などの**高収益作物の導入を生産者自らの経営判断で取り組む**。



加工・流通

消費者ニーズを捉えた野菜の生産

- 大都市近郊の立地を最大限に活かし、**外食産業との契約栽培や消費者ニーズに合った少量多品種の露地野菜を生産**。
- **イタリアン野菜を、大都市のレストランや居酒屋へ直接出荷**。



担い手

農業後継者グループが地域農業をけん引

- **専業農家の後継者が「みどり会」を結成し、地域の中心となって農業をけん引**。
- 都市在住の親子を対象とした農業体験イベントも毎年実施(直近3年間延べ参加人数353人)



高収益作物の栽培による担い手農家の販売額増加

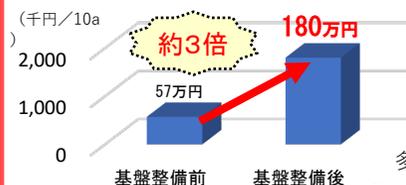
- 用水の安定確保により、**「かながわブランド」の野菜作付けが拡大**。
- 大都市近郊の立地条件を最大限に活かし、**消費者のニーズに即したマーケットインな農業生産を実践**。安定的な販路の確保及び契約栽培による高単価での販売により、**農家の単位面積当たりの販売額が大きく増加**。

【高収益作物の作付】
すいか

8.6ha
三浦かぼちゃ
0.9ha
青首だいこん 17ha
早春キャベツ
17.4ha
0.3ha



【担い手農家における10a当たりの販売額】



多品種のイタリアン野菜
【担い手農家からの聞き取りによる】

【対策のポイント】

- 都市化の急速な進展による流出量の増加等により、農地や住宅地等に**湛水被害が生じるおそれ**。
- このため、3か年緊急対策において、**農業用排水路の改修を加速化**。
- 令和元年台風19号、令和3年7月の豪雨では、農業用排水路の改修による流下能力の向上により**湛水被害の発生を防止**。

【取組地域の概要】

○位置
おだわらし
神奈川県 小田原市



○ 主要作物
・水稲、なす、きゅうり、梨、ほうれん草等

事業名	事業費	対策期間
農村地域防災減災事業	12億8,900万円	H29～R6
うち3か年緊急対策	1億6,800万円	H30

農業用排水路の改修を実施

- 農業用水路の老朽化に加え、都市化の急速な進展により豪雨時に短時間で流量が増加し、湛水被害が生じるおそれ。
- このため、特に緊急性が高い箇所を対象に、3か年緊急対策により**農業用排水路の改修を実施**。



豪雨による溢水状況



流下能力が不足している排水路

基盤整備

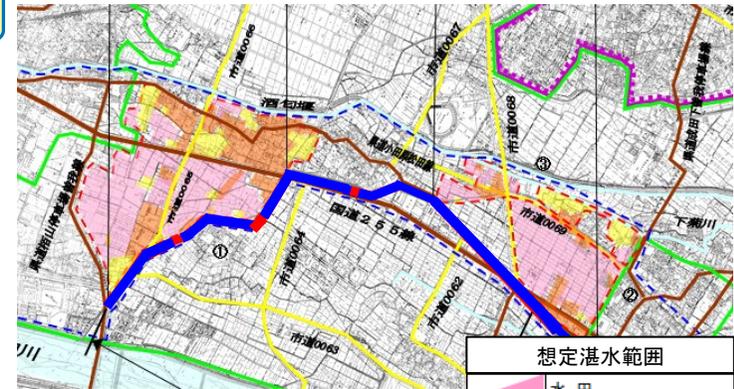
(H30～R2)



水路断面の改修により豪雨時の溢水を防止(令和3年4月)

農業用排水路改修による湛水被害の防止

- 令和元年10月の台風19号豪雨災害では時間雨量85.0mmを、**令和3年7月の豪雨では24時間雨量228mm**を記録。
- 従前では溢水による湛水被害が生じるおそれがあったが、**流下能力を約3倍にする水路の改修を実施したことで、湛水被害を防止**。



※青線：農業用水路
※赤線：3か年緊急対策において整備した箇所

想定湛水範囲	
水田	畑地
非農業施設	

想定される被害(1/20確率降雨)

	想定被害額	想定湛水面積
改修前	21億円	30.3ha
改修後	被害なし	被害なし

対策の効果

